

SUSTAINABILITY

サステナビリティ推進



Contents

Integrated Report 2024

- 13 サステナビリティ推進
- 15 人的資本経営
- 22 サプライチェーンマネジメント
- 23 研究開発・ものづくり戦略
- 26 投資家とのコミュニケーション
- 27 地球環境の保全
- 31 地域・社会貢献

サステナビリティ推進

基本的な考え方

私たちタダノグループは、「創造・奉仕・協力」の経営理念のもと、企業価値の最大化と持続可能な事業活動を行うことで、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献し、世界にそして未来に誇れる企業を目指します。

2024年に策定した中期経営計画(24-26)でも「脱炭素化を加速」を基本戦略に掲げるとともに、持続的成長に向けた取り組みとして、サステナビリティ課題への対応と資本コスト・株価を意識した経営を挙げています。



サステナビリティ課題への対応

当社では2005年にCSR委員会を設置し、企業の社会的責任や環境負荷低減に取り組んできました。2024年1月には、従来のCSR憲章を「タダノグループサステナビリティ憲章」に改訂しました。

経営におけるサステナビリティの重要課題を定め、方針と目標、進捗を管理するため、社長を委員長とし、全執行役員を委員とする「サステナビリティ委員会」を設置しています。また各部門における取り組み支援等の専任部署としてサステナビリティ推進グループを総務部に設置しています。

サステナビリティ委員会の下部組織として「リスク委員会」「コンプライアンス委員会」「環境委員会」「人財委員会」の専門委員会があり、全社的なテーマについて取り組んでいます。

なお人的資本については人財委員会、気候変動については環境委員会にてそれぞれ対応しています。また、2021年には、環境委員会の下部組織として「CO₂・エネルギー削減部会」「廃棄物・化学物質削減部会」を設置し、具体的な施策検討や各部門の情報共有、長期目標達成に向けた改善継続に取り組んでいます。

人権の尊重

私たちは、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、自らが人権侵害に加担することのないよう努めます。また、強制労働・児童労働を含めた、雇用におけるあらゆる差別の撤廃に努めます。

取引先(サプライヤー)と共に成長

私たちは、取引先(サプライヤー)と強い信頼関係を築き、共に成長していきます。また、サプライチェーンにおける法令順守・人権・労働・安全衛生・環境などのサステナビリティ・マネジメントに努めます。

公正・誠実な事業活動

私たちは、公正で透明性のある誠実な事業活動を行い、法令・国際社会および社内のルール順守と倫理的な行動、強要・贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止に努めます。またガバナンスの向上にも努めます。

社会貢献

私たちは、よき企業市民として社会に参画し、その発展に貢献する事業活動に努めます。

社員の尊重と働きがいの確保

私たちは、社員を財産(=人財)であると考え、ジェンダー平等をはじめとする多様性の確保、ワークライフバランスの重視と働きやすい職場づくり、人材育成に努めます。

地球環境の保全

私たちは、事業プロセスにおいて地球環境の保全に取り組み、気候変動への対応、循環型社会の実現、生物多様性の確保、海洋資源・水資源の保全、有害物質の削減と適正な管理に努めます。

適切なコミュニケーション活動

私たちは、ステークホルダーに対し、サステナビリティ開示基準等に則った正確な情報を適時、適切なコミュニケーション方法で開示し、長期的な信頼関係の維持に努めます。

主な取り組み課題・テーマ

Environment 環境	<ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素化を加速(環境対応製品の拡充) ●製品ライフサイクルアセスメント、資源循環型社会の実現 ●事業活動における脱炭素化、産業廃棄物の削減、化学物質の適正管理 	
Social 社会	<ul style="list-style-type: none"> ●人的資本経営、DE&Iの推進、女性活躍、グローバル人材の育成 ●働き手不足・技術継承問題を解決する自動化・省人化 ●サプライチェーン・マネジメント、人権の尊重 	
Governance ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ●資本コスト・収益性を意識した経営資源の配分 ●コーポレートガバナンスの強化、企業価値の向上 	
ESG共通	<ul style="list-style-type: none"> ●欧州CSRDをはじめとする各種サステナビリティ情報の開示 	

人的資本経営

基本的な考え方

人は財産(=人財)という考え方の下、多様な人財が集まり、個の潜在能力を発掘・開発し、個を活かして誰もが活躍できる場を提供します。また、変化を捉え、チームでイノベーションを起こし続ける社風『学習し、成長し続ける組織文化』を醸成します。

社員の成長なくして企業の成長はなく、持続的成長のために、社員が最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、健康で活力に満ちた職場環境づくりや人財育成に努めていきます。タダノで働くことが生活全般の満足度(Well-being)につながるよう、安全を第一に、仕事と生活のバランスのとれた働き方を推進します。



DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)

人財は競争力の源泉であり、『持続可能な経営』を実現する重要な要素のひとつと捉えています。人種、宗教、性別、性的指向・性自認、年齢、障がい、国籍、出身地、社会的出身、経歴等のあらゆる違いを尊重し、多様な人財の雇用と育成を強化・継続します。多様な人財一人ひとりが、自らの能力や個性を活かした組織パフォーマンスの最大化を実現するため、公平な成長機会の提供と組織文化を醸成します。

女性活躍

DE&I推進のために、女性を計画的かつ積極的に採用するとともに、指導的地位(管理職・監督職)への登用を進めています。具体的には、営業部門や技術系職種に女性が活躍できるフィールドを拡大したり、評価や昇格のあり方について見直したりしています。また、女性メンター制度のトライアル実施や、女性向け異業種交流セミナーへの派遣等、社内外女性ロールモデルの価値観に触れる機会づくりにも取り組んでおり、女性社員の「働きやすさ」と「働きがい」の向上を追求しています。この2点を実現する前提として、社員一人ひとりが仕事と生活のバランスのとれた働き方ができるよう、各種制度や職場環境の整備を継続しています。

	2023年度実績	2026年目標	2027年以降目標
女性比率	10.5%	10%	20%
女性監督職比率	5.2%	5%	9%
女性管理職比率	2.5%	4%	7%

女性社員の声

「数十年ぶりの女性営業として配属され、初対面のお客さまにはよく驚かれます。一度の訪問で顔を覚えていただけるとメリットを感じながらも、それに甘えることなく、私ならではの視点で営業活動をしていけたらと考えています。今後増えていく女性営業職の方々のためにも、働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいです」



「4年前から製造現場の班長として仕事をしています。女性初の製造現場の役職者ということで不安はありましたが、やるからにはみんなが働きやすい職場にしたい!という思いで取り組んでいます。今では工場でも女性社員の相談窓口にもなって、やりがいを感じています。職場の重量物に対する設備導入や施設環境の見直しにも参画し、「この会社で働いて良かった」という社員を一人でも多く増やしたいです」



くるみん認定の取得

2022年5月に厚生労働省より「くるみん認定」を取得しました。今後は「くるみん」の上位認定版の「プラチナくるみん」取得を目標に取り組んでいきます。



また、国内グループ会社のタダノエンジニアリングについても、女性が自分らしく積極的に活躍できる職場づくりへの取り組みが評価されて2024年2月に「素敵にたかまつ女性活躍企業」に認定され、その取り組みが優秀な企業を対象とした「瀬戸の都・高松が誇るビジネスアワード」の表彰をグループとしてはじめて受賞しました。

男性の育児休業

女性のみならず男性も育児休業を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。その結果、昨年度取得者13名から、2023年度は24名の男性社員が育児休業を取得しました。ライフイベントに応じた柔軟な働き方を拡充することで、誰もが働きやすく、働きがいのある職場環境づくりを推進していきます。

男性育休者の声

「はじめての子育てということもあり、妻の心身のケアと子育て環境を整えるため、育休を3週間取得しました。育休中は、職場復帰をイメージしながら、仕事も子育ても無理のない範囲で生活ができるか、十分に妻と話し合う時間を取ることができました。復帰後、業務は成果物から逆算しながら効率良く進めることを心がけ、そのための事前準備などを大切にしています」



上司の声

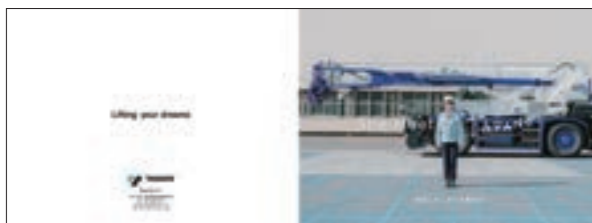
「育休取得の相談があったとき、家族みんなが健康で良いスタートがきれることを優先してほしい旨を伝えました。他メンバーと協業を進める良い機会だと捉え、業務分担や引継ぎスケジュールについて考えはじめました。負荷を軽減・共有しながら、彼に任せている部分は特別対応せず、しっかり任せました。メンバーみんなが元気に過ごしているか、何気ないサインを見落とさず、普段からさりげない声かけを心掛けています」

SUSTAINABILITY

多様な人財の確保

多様な人財確保に向けた採用強化

DE&I推進の一環として、女性採用に力を入れています。女性がより輝ける職場を紹介する動画や、紹介冊子の作成、理系女性にフォーカスしたインターンシップの開催等、今後も引き続き一人でも多くの方にタダノの魅力を感じていただくための情報発信にも注力していきます。また、国境を超えたダイバーシティ推進の一環として、留学生や、外国の学生、外国人キャリア人財の採用も強化しています。それぞれが持つ背景や能力、経験などを含むさまざまな価値の多様性を受け入れ組織に活かすことが、社員の動きがいや生産性の向上、付加価値の創出につながると考え、今後も多様な社員が能力を発揮できる環境の構築に取り組んでいきます。



女性社員紹介パンフレット

再雇用制度の拡充

タダノでは、60歳定年制をとっており、定年退職後は再雇用として継続勤務いただいています。直近(2020年度~2023年度)では、85%の方が定年後再雇用として活躍しています。定年後離職者のグループ内登録派遣制度(TADANO Next-job Challenge System)等、各社ニーズと社員の要望をマッチさせる制度を設けています。今後も再雇用者の人数は確実に増えていくこともあり、モチベーション高く活躍できる、かつ、多様な働き方が選択できるように、再雇用制度の見直しを進めています。

リターン雇用制度(復職制度)は、2020年5月に制度運用を開始し、これまでに5名が復職しています。現在は、自己都合退職者を含め退職時にリターン雇用制度の案内をしています。今後は、会社情報なども積極的に発信していきながら、復職しやすい環境づくりに取り組んでいきます。

働きやすい職場づくり

タダノで働くことが生活全般の満足度につながるということを目指し、多様な働き方のニーズに対応することで、心身ともに健康で活気に満ちた職場環境で仕事と生活のバランスのとれた働き方を推進しています。働きやすい職場づくりの施策として、2024年4月より、

インターンシップの取り組み

世界を相手にチャレンジし続けるタダノについて、また、職種ごとに多様化、より高度化する業務内容に触れて理解を深められる機会として職種ごとにインターンシップを開催しています。先輩社員と和気あいあいとした座談会や、実際の仕事現場を生で体感できる場を通じて、学生の期待に応える中身の濃いインターンシップを8月、9月に順次開催予定です。

グローバル人財の声

「技能職として旋回台の部品の仮付けや溶接等を担当しています。タダノには良い品質を保つため、プライドを持って働いている仲間が多くいます。私も、「困難なこと=チャレンジ」と考え、自分が成長できる機会と思い取り組んでいます。また、職場安全委員のリーダーも任せられ、将来、外国の方が増えても作業を理解できるよう、工程内作業の英語表記を増やすことを目標に活動しています」フィリピン出身



リターン雇用者の声

「夫の転勤に伴って離職しましたが香川に戻ってきたため、リターン雇用制度を利用して復職しました。5年のブランクで職場環境も変わっており不安がありましたが、職場の上司も戻ってくるのを待っていてくれ、温かく迎え入れてくれました。同じ部署へ復帰できたので、過去の経験も生かせてすぐに業務を遂行することができました」

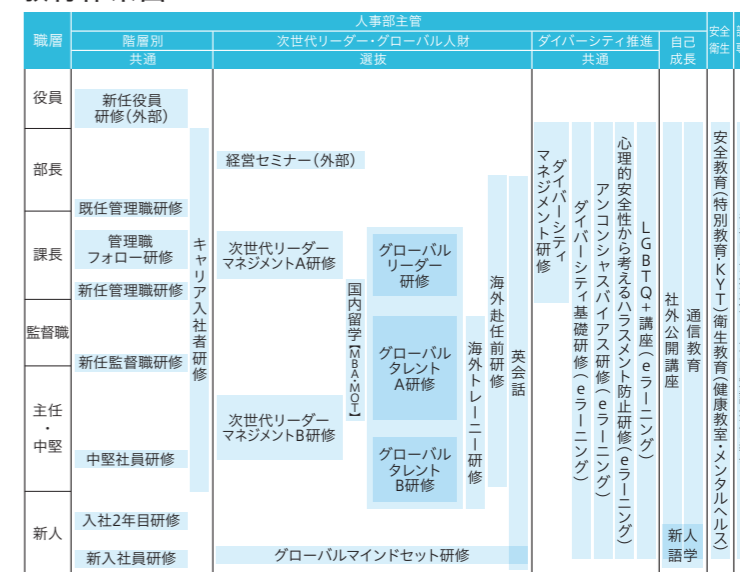


グローバル人財の育成と自律的なキャリア開発支援

事業領域のグローバル化に伴い、若手社員でも積極的に海外赴任を経験するなどグローバルで通用する人財の育成に注力しています。加えて、昨今における個人の価値観・働き方が多様化する中で、仕事を通じた自己実現を目指して個々人の主体的な変革へのキャリア形成支援を進めています。2023年度から、自己啓発・リスキリング支援として、自由にコンテンツと日程を選び受講できる、社外公開セミナーを導入し、自律的な学びを促進しています。2023年度は50歳を迎えた社員および新卒2年目社員を対象に「キャリアデザイン研修」を実施しました。また、年代に関係なく希望者には、キャリアコンサルタントとの面談の機会を設けました。自分が置かれた状況、与えられた役割、働き方や働く意味・目的など、多面的に自己理解を深め、節目ごとにキャリアを充実するために何が必要かを考えていくきっかけとなっています。

また、大学のリカレント専門講座への参画を推奨し、希望者を送り出しています。社外の多様なメンバーで構成されるチームで問題解決にあたるための思考法と、その土台となるマインドセットを醸成するための「グローバル視点」について学び、自社課題に対応できる基礎力を養います。一人ひとりが主体的にキャリアを描き行動に移すサポートを行うことで、多様な働き方に対する選択肢の拡充、より働きがいのある職場づくりを進めていきます。

教育体系図



グローバル人財

「グローバル人財育成体系」を2024年度より強化し、新入社員からリーダーまで対象を拡大し中長期的に育成します。スピード感を持ち、早期にグローバル人財を育成することを目的として、4月には新入社員全員を対象とした「グローバルマインドセット研修」と「TOEIC受験」を実施しました。



従業員エンゲージメントの取り組み

2021年度より、従業員エンゲージメント調査を実施しています。導入時から、全体のエンゲージメントスコアに変化がなく、取り組みの変化が見えにくい時期が続きました。3年目となる2023年の調査でスコアが+2ポイント上昇したことで、本取り組みの目的を理解し組織改善のサイクルが回りはじめたと考えます。

さらに、ものづくりメーカーとして、特に「開発部門」と「生産部門」のエンゲージメント向上に注力しています。開発部門では、管理職全員でエンゲージメント調査を分析し、組織改善のアクションプランを策定することで改善に努めました。生産部門では、香川県内の工場から生産スタッフを含め、管理・監督職約100名を集め、エンゲージメント向上を考えるミーティングを実施しました。その後、部門として共通のテーマを決定し、アクションプランに対するサーベイを実施し、データ分析から重点志向で取り組みを進めた結果、多くの組織で所属員の「期待」と「満足」いずれの数値も上昇するという結果を得ることができました。



SUSTAINABILITY

健康経営への取り組み

健康経営優良法人に認定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んできました。2018年からは経済産業省・日本健康会議が認定する「健康経営優良法人(大規模法人部門)」にも選ばれています。また、日本国内のグループ会社11社(前年度10社)についても、2024年3月に「健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)」の認定を受けました。

また時間外労働や有給休暇取得率、定期検診・精密検査の受診率や非喫煙率、ストレスチェック受検率など10項目の「健康経営KPI」を設定・公表し、ワークライフ・バランスの確保、生活習慣病の予防、メンタルヘルス対策といった課題に取り組んでいます。



リフレッシュ体操(ストレッチ音楽)の導入

タダノグループでは、2023年8月から健康経営推進の一環として、業務中に「リフレッシュ体操」でセルフケアを推進しています。コロナ対策で実施中だった「換気タイム」を「リフレッシュタイム」へのアナウンスに変更し、換気およびストレッチで心とからだのリフレッシュを図っています。

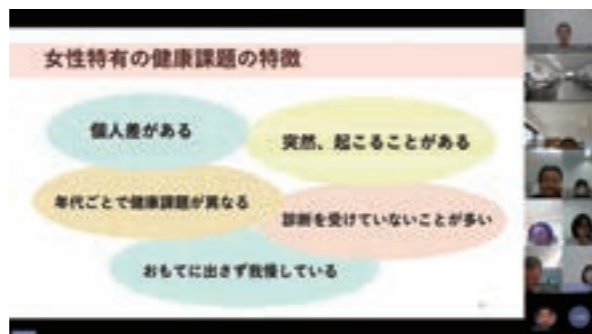
目的は、業務中に適宜ストレッチすることにより、固まった筋肉をほぐし、心とからだの緊張の緩和でリラクゼーション効果と目の疲れや筋骨格症状(肩こり・腰痛)を予防することです。定期的なストレッチにより「一日の終わりの疲れが軽く感じる」との声があります。今後も、さまざまな取り組みを通して社員がいきいきと輝き続けられるよう健康経営を推進していきます。



管理監督者の健康教室(女性活躍推進の取り組み)

衛生月間行事として管理監督者向けの健康教室を実施しています。社外講師を招き、社内の管理監督者だけでなく、購買先の企業や他企業の健康保険組合にも参加いただいています。コロナ禍以降はオンラインと対面でのハイブリッドで実施しており、個人や職場で考えてほしい健康課題の内容にしています。

2023年10月には「女性活躍推進のために知ってほしい健康課題」と題し、女性特有の健康課題やライフイベントに伴う心理的負担を当社産業医に講演いただきました。参加者は過去最高の531人となり、女性だけの問題として捉えるのではなく職場全体で問題意識を高めることができました。今後も女性が働きやすい職場づくりを推進し、誰もが働きやすい職場・会社づくりを進めていきます。

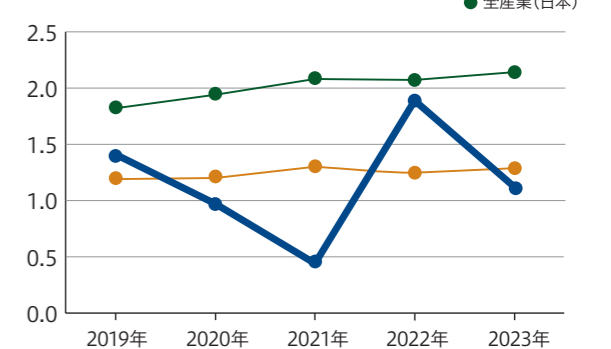


労働環境への取り組み

タダノには、顧客と社会を守るため、「製品安全」に対する大きな義務と責任があります。その製品安全を支えているのは社内の「労働安全」です。この、社内の労働安全がしっかりしてこそ製品安全を確保できると考えています。

2022年3月、日本国内の工場を対象に外部機関による安全診断を受けて、評価とフィードバックをいただきました。その後、従来取り組んでいた安全衛生活動を継続しながら、2022年9月よりアニメーションによる動画配信型安全衛生教育を毎月受講しています。さらに2023年5月より管理監督者向け対話型安全巡視の研修を受け、社員の不安全行動や状態を抽出する技術を習得し、作業員との効果的なコミュニケーション技術を身につけることで、事故のリスクを低減する活動を行っています。

労働災害の発生状況(度数率※)



※100万のべ実労働時間あたりの労働災害件数で、休業災害発生頻度を表します。(製造業および全産業(総合工事業除く)の数値は厚生労働省労働災害動向調査から引用) ※算定対象範囲はタダノ単独における全拠点です。

快適な職場環境

従来、志度工場内にシャワールームが設置されておらず、2024年、新たにシャワールームを3基設置しました。うち、1基は女性専用として設置しています。工場内で働く社員の労働環境を整えるための衛生面を考慮した改善は、エンゲージメント向上につながっています。

また、安全第一のもと各職場に合った労働環境の改善に取り組んでいます。特に暑さ対策は必要に応じて随時行い、工場勤務者には空調服や防暑ヘルメット、溶接従事者には電動ファン付き呼吸用保護具や個人用冷却器(クーレット)を導入しています。働きやすい職場づくりは生産性の向上にもつながっています。



福利厚生制度の充実

カフェテリアプランの導入

公平性・満足度の高い福利厚生制度を目指し、多様なライフスタイルやニーズに対応した「カフェテリアプラン」を導入しています。育児・介護用品の購入費補助、健康増進のための補助、生活・余暇に対する支援等さまざまなメニューがあり、個々のニーズに合わせて

て利用者が主体的に選ぶことのできる制度です。さらに、健康増進に取り組んだ社員には、カフェテリアプランのポイントを付与するイベントを開催する等、従来の福利厚生制度にとらわれない幅広い利用がされています。

「ONE TADANO」への取り組み

「ONE TADANO」を目指すための新しいチャレンジとして、2022年4月より、社内報などの社内広報ツールを、日本語と英語それぞれのウェブサイト「ONE TADANO情報サイト(日本語)」「One TADANO Portal(英語)」に統合し、「グループ報」のような位置づけで国内外全てのグループ社員宛に情報発信しています。

また、グループ社員向けの動画配信企画「ONE TADANO TALK LIVE」をはじめました。最初のシリーズとして、社員の皆さんから募集した氏家社長への質問を中心に「教えて！氏家さん」と題してざっくばらんに話を聞いたり、氏家社長と社員との座談会を実施したりしました。参加した社員や視聴した社員からは「社長と直接話すことで自分の考えも明確になった」や「今まで遠くに感じていた社長をより身近に感じた」などの声がありました。今後もさまざまなコンテンツを企画していく予定です。



人権の尊重

「タダノグループ人権方針」の制定

2024年1月、経営理念およびタダノグループ・サステナビリティ憲章に基づき、タダノグループの全ての役職員が人権を最大限尊重するよう「タダノグループ人権方針」を定めました。「国際人権章典」および「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」等の国際規範を尊重し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、「国際規範の支持・尊重」「事業活動における人権の尊重」「人権デューデリジェンス、是正・救済」「教育」「情報開示、対話・協議」の5つを実践していきます。

アンコンシャス・バイアス研修

2022年度および2023年度において、グループ会社含む全役員・管理職を対象に「アンコンシャス・バイアス研修」を実施しました。

以前より全社員に実施していた「ハラスメント防止研修」の応用学習とし、ハラスメントの原因となりうる「アンコンシャス・バイアス」について理解し、周囲にどのように影響するかを学習しました。本研修は、以前より取り組んでいるDE&I施策の中で、特に女性活躍推進活動をより積極的に進めていくには、全社的意識改革が必要であるため、2024年度は、一般従業員へも拡大実施を予定しています。

本研修を通じて、無意識に生み出される差別や偏見、ハラスメントを未然に防止すること、ひいては多様な人材が活躍できる職場環境づくりを目指します。

サプライチェーンマネジメント

基本的な考え方

当社製品は数万点から成るパーツで構成されており、その多くを購買先から調達しています。より安全で品質の高い製品をお客さまに提供するためには、購買先との強い信頼関係が大切です。

タダノグループサステナビリティ憲章では「取引先（サプライヤー）と共に成長」とのテーマを掲げ、「サステナブル調達ガイドライン」を制定して、取り組みを進めています。

また、当社ではSOC4物質を使用しないなど「環境に優しい製品づくり」を進めており、購買先にも理解と協力をいただいています。

相互の成長を目指してータダノ協栄会

競合他社に負けない技術・能力を持ち、21世紀に生き残れる自立した提案型団体になることを目指し、1999年4月に購買先と当社にて「タダノ協栄会」を発足しました。発足から現在まで、購買先と長期的な信頼関係を結び、お互いに成長発展を続けてきました。会員企業数は合計52社(2024年2月時点)で、活動としては安全研修会、改善活動発表会、工場見学会、SVEカンファレンスなどを毎年実施しています。また、優良な購買先への表彰も毎年行っています。



工場見学会の事前説明



協栄会メンバーの工場見学会

Win-Winの関係を目指してー「四位一体のSVE活動の推進」

より良い製品を開発・生産するために、購買先とタダノの3部門(開発・生産・購買)がまさに「四位一体」となって、2009年からSVE活動を推進しています。SVEとは当社独自の活動で、VE(Value Engineering)に「S(Super and Sustainable)」を付け、今までのVE活動を超える活動として、永続的に将来に向かって力強く継続できる活動にしたいという思いが込められています。

SCOOP活動

SVE活動の中核を担う「SCOOP(Super Cooperation/素晴らしい協業)活動」は、2011年からスタートし、購買先と共に個別のテーマ・目標を設定し、お互いの強みや特性を活かしながら価値・機能向上やコスト削減に取り組む活動です。

購買先からのコメント

ブリヂストンタイヤソリューションジャパン株式会社
代表取締役社長 久米 伸吾 様

「当社は路面と唯一の接点であるタイヤを供給するとともに、全国のサービスネットワークを通じてタイヤメンテナンスを行い、公道を走行するクレーンの足元を支えています。タダノ様のカーボンネットゼロに向けた取り組みに共感するとともに、定期技術交流会等での開発・購買の皆さまとの活発な意見交換に大いに刺激をいただいております。

当社も冬タイヤの軽量化など足元の課題解決に加え、電動ラフテレーンクレーンにより適したタイヤを安全に、長く、上手く、効率的に使用いただく等新たな価値創造にタダノ様と協働で取り組むことで、共に成長していきたいと考えております」



株式会社カワニシ
代表取締役社長 川西 弘城 様

「当社創業者が多田野鉄工所のエンジニアとしてお世話になっていたご縁により、1964年の設立後に製缶溶接部品の製造を開始、その後も多大なる御厚誼を賜り、現在ではラフテレーンクレーンのシャシフレームをはじめ200アイテムを超える部品製造に加え、生産ライン用機器の設計製作のお手伝いをするまでに育てていただきました。技術革新・環境対応・グローバル化と、迎えた大変革の荒波を乗り越え、タダノグループの発展に貢献できるよう、人材と生産体制の拡充に注力してまいります」

研究開発・ものづくり戦略

基本的な考え方

タダノグループは、経営理念「創造・奉仕・協力」を基に、安全・安心を実感し、お客さまに「素晴らしい！」と感動していただける真心の「品質・サービス」を提供することで、「顧客満足度世界No.1」の実現を目指しています。

なお、デジタル技術の革新によりIoTやAIの活用が急速に広がる中で、当社も製品とデジタル技術を融合させ、お客さまや建設現場でのニーズに対し、製品（ハード）だけではなく「吊る」機能に着目した新たなソリューションサービス（ソフト）で応えていくビジネスにシフトしていきたいと考えています。

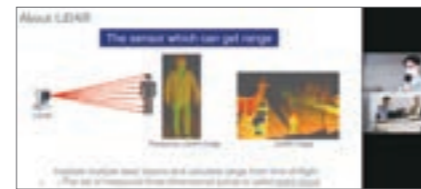
研究開発への取り組み

欧州リサーチセンター

獨創性、先進技術を有するドイツの持つ環境を活かすべく、グループのLifting Solutionを創造する欧州リサーチセンターを設立しました。欧州リサーチセンターでは、マーケットリサーチを含め、差別化技術や新たな価値創出を狙い、活動を継続していきます。

技術報告会

技術課題や研究成果を共有し、互いに意見を交わしながら解決策を見出すために開催している技術報告会も通算23回を迎えました。近年では、海外グループ社員へと参加者の幅を広げ、グループ全体での技術情報の共有を促進しています。



パワートレイン試験棟

近年、カーボンニュートラルに向けた技術革新が一層加速しており、当社製品に関しても日々進化する新技術を盛り込んだ、安全かつ品質・効率の高い製品の開発が急務となっています。当社の製品は大型のものが多く走行試験を行う場所や設備が限られており、この先、新しいパワートレインの開発を行うには、道路を走らずとも精度良く試験・評価する環境が必要です。そこで従来機種種の開発はもちろん、電動化や自動ブレーキ、自動運転などの将来へ向けた先進的な開発を行うために、さまざまな車幅・軸重・

軸距・駆動方式の車両に対応できる柔軟性をもち、多様な試験検証が可能となる本設備が2022年10月より本格稼働を開始しました。実走行では危険を伴う試験や、気象条件などに左右され定量的な評価が難しい試験をパワートレイン試験棟で検証することで開発効率を上げ、安全・品質を確立し、新技術の開発スピードアップを図っています。



安全への取り組み

安全操作講習会の実施

製品を適切・安全に使用いただくため、ご要望に応じて国内外で各種製品の安全講習会を開催しており、数千名の方に参加いただきました。はじめてご使用になられる方や機械の管理者など、受講対象者に合わせたカリキュラムを用意しています。2023年10月、ブラジルのグループ会社Tadano Brasil Equipamentos de Elevacao Ltda.は、現地のクレーン協会(SINDIPESA)に働きかけ、第3回目の安全操作講習会(WORKSHOP)を開催しました。今回は新たな取り組みとしてYouTubeチャンネルのストリーミング

配信を行い、より多くのお客さまに情報提供ができるようになりました。講習会企画の際には、競合他社に共同開催の呼びかけをし、また、オペレーターの他、未来のクレーン業界を牽引することが期待される機械を専攻する学生にも声を掛けました。講習会の結果、3時間以内に1,200回の視聴があり、2回目のZoom配信よりも多くの方に参加、視聴いただきました。今後も引き続き活動を継続する予定です。



品質向上への取り組み

複雑で繊細な機械のクレーンは経験工学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵になります。「専門技能の習得」と「多能工化」という2つの側面から人材育成を推進し、品質向上と多能工化による効率的な生産を実現しています。当社は1996年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。開発の初期段階から、もし万が一市場で品質問題が発生した場合の迅速な対応に至るまで、お客さまに満足を提供し続けられるよう、業務プロセスを革新しました。生産部門では、2007年から「コアバリュー活動」を導入し、管理ボードの運営などによる日々の品質状況のみえる化と改善への取り組み(PDCAサイクル)を、全ての生産拠点で展開しています。また、品質安全部が主管となり、社長をはじめとする経営陣による日本国内各工場への品質トップパトロールを年に一度実施しています。パトロールでの指摘事項は全工場で共有され、全社的な

改善と情報共有を行っています。当社工場では生産性の向上と新たな価値創出を目指して、ものづくりDX(デジタルトランスフォーメーション)にも取り組んでいます。今後、段階的に生産を支援するシステムを導入し、安全・品質・効率の向上や環境負荷低減をさらに進めていきます。



デジタルサービス

Lifting Solutionで新たな価値を

「安全で、質の高い、効率的な揚重作業を提供したい」。これは今も昔も変わらないタダノの一貫した思いです。そのため、テレマティクスをはじめとしたデジタルサービスに早くから取り組んできました。今、DXを旗印に、建設・建築業界が大きな転換点を迎えている中、皆さまのDX推進を、トータルソリューションでサポートします。「Lifting Equipment」を超えた「Lifting Solution」を提供することは、これからのタダノの使命の一つです。



Lift API

※当社が提唱する、API 群の総称です。

デジタル化・オープン化で業界の常識を変える

デバイスやアプリケーションの違いによらず、実機の性能演算機能やテレマティクスデータを、インターネットを介して提供する仕組みです。タダノ製品をお使いいただく上でお客さまが利用されている施工計画ソフトウェアや、機械資産管理ソフトウェアとの連携を皮切りに、データを通じて今後一層お客さまとタダノが繋がります。



HELLO-NET

現場のクレーンとお客さま、タダノをつなぐ

通信衛星や携帯端末などを用いてクレーンの稼働状況をリアルタイムで手軽に把握。故障の前兆をキャッチし、事前にメンテナンスする「ピフォーサービス」を可能にします。建設用クレーン、高所作業車を中心に標準搭載を進めており、累積台数は日本で約23,000台、海外では約9,000台にのぼります。



デジタルデータ

BIM・CADをはじめとしたデジタル素材

施工計画書、配置図等の作成にお使いいただける、各種デジタルデータを提供しています。2D・3D CADに加え、近年、建設建築分野で導入が進んでいるBIM(Building Information Modeling)に対応した3Dデータも取り揃え、世界中のお客さまより高い評価をいただいています。これらの素材をLift APIと連携させることにより、さまざまな分野で新たな可能性が生まれます。

国際建機展への出展

bauma 2022 & CONEXPO 2023

2022年秋と2023年春、ドイツとアメリカで2つの国際建機展に出展し、タダノグループにとって大きな成功を収めることができました。2022年10月にミュンヘン(ドイツ)で開催された建設機械、鉱山機械、建設車両等の世界最大の見本市である「bauma 2022」に出展しました。Tadano Demag GmbHがタダノグループに加わって初めての出展となり、前回のbauma 2019以降の新モデル13機種を展示しました。



加えて、地球環境の改善と脱炭素社会の実現に貢献する製品を「Tadano Green Solutions」の名のもと、AC 3.045-1 with e-PACKとHybrid Concept MachineのAC 4.070-1を展示しました。また、2023年3月にラスベガス(アメリカ)で開催された国際展示会「CONEXPO 2023」に最新製品を出展しました。5日間の展示期間中、多くのお客さまが来場くださいました。アメリカ、カナダ市場向けフル電動ラフテレーンクレーンEVOLT eGR-1000XLLをはじめとする「Tadano Green Solutions」専用のグリーンエリアでは、『Our True Mission: ゼロエミッション』のスローガンのもと、環境に配慮した製品や事業活動についてのパネルを展示し、お客さまの注目を集めました。



投資家とのコミュニケーション

当社のIR方針について

タダノグループサステナビリティ憲章では、株主・投資家の皆さまを重要なステークホルダーの一つと位置づけ、約束しています。私たちは全てのステークホルダーに対し、関係法令の遵守はもとより、経営や事業活動状況など企業情報を適時かつ適切に開示します。

また東京にて「アナリスト説明会」を年2回開催し、社長自ら決算の状況や当社事業の方向性について説明しています。また機関投資家の皆さまをはじめとする企業訪問や工場見学も積極的に受け入れています。

IRカレンダー

イベント	2024年度	イベント	2024年度
2023年12月期 通期決算発表	2024年 2月14日	2024年12月期 第2四半期決算発表	2024年 8月9日
アナリスト説明会	2024年 3月5日	アナリスト第2四半期決算説明会	2024年 9月2日
第76回 定時株主総会	2024年 3月27日	2024年12月期 第3四半期決算発表	2024年 11月11日
2024年12月期 第1四半期決算発表	2024年 5月14日		

機関投資家・アナリストとの主な対話実績

活動	2023年度	活動	2023年度
社長説明会	2回	個別面談	117回
スモールミーティング	16回	施設見学	4回

アナリストカバレッジについて

タダノの業績などを分析し、当社株式の推奨、論評などを行っている証券会社のアナリストの方々をご紹介します。(2024年6月1日現在)

社名(50音順)	アナリスト氏名
CLSA証券株式会社	エドワード ボーレー 氏
JPモルガン証券株式会社	佐野 友彦 氏
SMBC日興証券株式会社	谷中 聡 氏
大和証券株式会社	三浦 勇介 氏
株式会社東海東京調査センター	大平 光行 氏
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	井原 芳直 氏

<注意事項>

- この一覧は、掲載時点で当社が入手可能な情報に基づいて、当社に関するレポートの発行を確認できる証券アナリストの方々を掲載しています。従って、この一覧には掲載していないアナリストも存在し得ること、また全ての情報が最新ではない可能性があることを、あらかじめお断りしております。
- この一覧の掲載に関しては、当社の業績などを分析、予測する企業または調査機関のアナリストの情報を紹介するという趣旨のみで掲載しており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。
- この一覧のアナリスト、およびこの一覧に掲載されていないアナリストは、定期または不定期に、独自の判断に基づいて当社の業績、事業、製品、技術などを分析し、あるいは業績を予測しております。それらのいかなる過程にも、当社または当社の経営陣は一切関与していません。実際の投資に際しては、ご自身の判断で行われるようお願いいたします。

地球環境の保全

基本的な考え方

タダノグループでは、気候変動対応、CO₂削減、産業廃棄物削減、森林保全・海洋保全、生物多様性保全といったさまざまな視点からの地球環境の改善に取り組んでいます。2024年に改訂した環境方針「人と機械と環境の協調を図り、幸せな社会づくりに貢献します」の下、社員一人ひとりの環境に配慮した行動、環境にやさしい製品開発とサービス提供、環境に配慮した事業活動に努めます。

長期環境目標

タダノグループは長期環境目標として「2019年度比で2030年に事業活動におけるCO₂排出量25%削減、製品におけるCO₂排出量35%削減、事業活動における産業廃棄物排出量50%削減」を掲げています。

タダノグループ長期環境目標2030

〈CO ₂ 削減〉 2019年度比	
①事業活動におけるCO ₂ 排出量	25%削減
②製品におけるCO ₂ 排出量	35%削減
〈産業廃棄物削減〉 2019年度比	
事業活動における産業廃棄物排出量	50%削減

事業活動におけるCO₂削減

気候変動問題は、世界が一丸となって乗り越えていかなくてはならない重要な課題です。タダノグループとしても、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献するための取り組みを進めています。

志度工場では2008年に最大出力260kWの太陽光パネルを設置し、生産およびエネルギー使用量のさらなる効率化に向けた再編に取り組んでいます。また、「Next Generation Smart Plant ~人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場~」をコンセプトに掲げる香西工場では、エネルギー使用量をリアルタイムで把握できるEMS(エネルギーマネジメントシステム)を導入し、2021年に最大出力1,182kWの太陽光パネルを設置しました。両工場においては、エネルギー効率が良くCO₂排出の少ないバージ船を利用した製品輸送にも取り組んでおり、モーダルシフトも積極的に推進しています。2023年1月には多度津工場に最大出力608kWの太陽光パネルを設置し、取り組みをさらに加速させています。2023年にはグループ社員が自宅で発電した太陽光の余剰電力を、電力会社を通じて買い取り、志度工場で活用する新たな取り組みをはじめました。海外では、ドイツのグループ会社Tadano Demag GmbHが2023年8

月、Dinglerstraße事務所の屋根に675平方メートルの太陽光パネルを設置しました。この太陽光発電システムは年間約70,000kWhを発電し、一日あたり、事務所の建物2棟に電力を供給するのに十分な電力を発電できます。

また、製品カタログの配送方法を見直し、高松本社・東京オフィスからの直送体制を構築することにより、輸送によるCO₂排出を削減するという新たな取り組みも進めています。国内外におけるその他の事業所でも、太陽光パネルの設置やエアコンや照明の節電、社有車のEV化・HV化など、環境負荷低減に取り組んでいます。今後も社会の一員として、地球環境の改善に配慮し、脱炭素社会の実現に向けた各種取り組みを強化させていきます。



太陽光パネルの設置 (Dinglerstraße事務所)



バージ船を利用した製品輸送

- ※1 日本国内全拠点(グループ会社・工場などを含む)が対象。
- ※2 海外生産拠点が対象。今後、算定範囲をその他海外拠点にも拡大予定。
- ※3 グループ売上高を分母とした原単位を表記(CO₂:トン/売上高:億円)。

CO₂排出量の推移(SCOPE 1・2)

項目	2019年度 (2020年3月期)	2023年度 (2023年12月期)
CO ₂ 総排出量(t)	31,389	28,734
【内訳】 日本 ※1	20,164	17,857
海外 ※2	11,225	10,877
【参考値】 売上高原単位 ※3	13.77	10.25

製品におけるCO₂削減

建設機械のライフサイクルにおけるCO₂排出量は、製品稼働中の排出が大部分を占めています。このような背景もあって、未来の地球を守るために、製品におけるCO₂排出量の削減は大きな課題です。エンジンを起動せずにクレーン作業を可能にする電動パワーユニット「e-PACK」を欧州、そして日本に市場投入するなど、CO₂排出量の削減や、燃料消費量の低減、低騒音作業など作業効率と環境に配慮した操作をサポートしています。その他にも従来のディーゼル燃料(軽油)から環境負荷の少ない水素化植物油(HVO)へ変更する等の対応も積極的に取り組んでいます。また、欧州生産拠点で生産される全ての製品は、すでに代替燃料で運転することができます。

2023年12月には、世界初となる電動ラフテレーンクレーンを日本で発売しました。電動ラフテレーンクレーンは、電気のでクレーン作業・走行を行うことができ、製品からのCO₂排出量を

口にすることができます。電動ラフテレーンクレーンは、タダノの環境問題への配慮と「Tadano Green Solutions」戦略の実現に向けた取り組みの極みです。2024年にはアメリカ、カナダでの発売も予定しています。

当社グループの製品は、今後GXで増加すると見られる風力発電等の建設現場でも大きな活躍が期待されています。社会のお役に立てるよう、今後も環境保全に貢献する製品開発を進めていきます。



電動ラフテレーンクレーンEVOLT eGR-250N

事業活動における産業廃棄物削減

政府は循環型社会の実現に向けて、廃棄物の「3R(リデュース、リユース、リサイクル)+リニューアブル」を推進しています。タダノグループでも、2008年の環境マネジメントシステムISO14001の認証取得を契機に、事業活動における産業廃棄物の削減に取り組んでいます。

当社における産業廃棄物のおよそ9割は生産拠点から排出されています。分別の徹底、有価物化の推進、部品梱包材の脱プラ推進、余剰部品の有効活用などにより、産業廃棄物の削減を図っています。

有価物化の推進では、廃油をマテリアルリサイクルし再生重油としての再利用や、木製ワイヤードラムをワイヤーロープ取扱業者様に再利用していただく仕組みを導入しました。

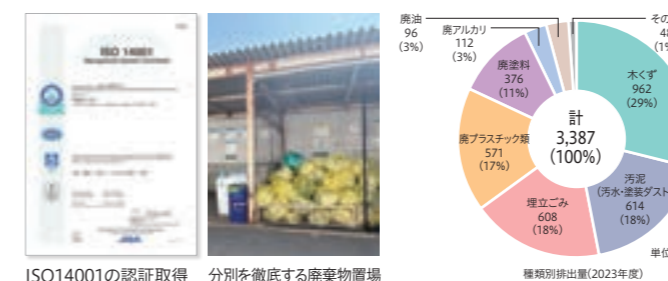
また近年、世界共通の課題となっているプラスチックごみ問題の対応として、ビニール系プラスチックの有価物取引きを導入し、プラスチック

廃棄物の削減に向けて取り組んでいます。また、部品の納品時に使用する通い箱などの再利用やリサイクルを促進することで、事業活動の中で排出される産業廃棄物の資源化もさらに推進しています。

さらに、製品のパンフレット、データシート、写真などの印刷物の必要性を減らすために、ウェブとiOS用のTadanoProアプリを開発しました。全ての情報をデジタルで提供することで、紙の使用量を最小限に抑え、森林の保全や廃棄物の削減を実現しています。この環境に優しいツールは、お客様のアクセスを効率化するだけでなく、デジタル時代における持続可能な実践に対するタダノグループの取り組みを示しています。



TadanoProアプリでの製品情報



産業廃棄物排出量の推移(SCOPE 1・2)

項目	2019年度 (2020年3月期)	2023年度 (2023年12月期)
産業廃棄物総排出量(t)	4,143	3,387
【内訳】 日本 ※1	2,290	2,557
海外 ※2	1,852	830
【参考値】 売上高原単位 ※3	1.81	1.20

- ※1 日本国内全拠点(グループ会社・工場などを含む)が対象。
- ※2 海外生産拠点(TDG・TFG)が対象。今後、算定範囲をその他海外拠点にも拡大予定。
- ※3 グループ売上高を分母とした原単位を表記(産業廃棄物:トン/売上高:億円)。

SUSTAINABILITY

風力発電への貢献

脱炭素社会の実現に向けて日本でも新たに設置プロジェクトが進む洋上風力発電。

貨物船やトレーラートラックによって運ばれた風力発電装置のパーツは、一度港湾施設に運ばれた後、先組み(プレアッセンブル)してから運搬船に積み込まれる作業方式が想定されています。2019年のTadano Demag GmbH買収によって、当社グループのラインナップに加わった世界最大級3,200トン吊りのラチスブーム式クローラクレーンCC 88.3200-1 TWINは、大型化が進む風力発電装置の先組みに大いに活躍し、安全で質の高い建設作業をサポートします。

風力発電先進国であるドイツで培ったノウハウを活かし、日独の両方に開発・生産拠点を持つタダノグループならではの優位性を発揮し、この分野でのさらなる貢献に取り組めます。また風車の補修・メンテナンスのための荷役作業を担うダビットクレーンや最大地上高52.8メートルと国産最高を誇る高所作業車AT-530CGなど、さまざまなソリューションを提供します。

タダノグループは陸上・洋上を問わず、風力発電建設・メンテナンスの現場をサポートし、脱炭素社会実現を支えるクリーンエネルギー創出の一翼を担います。



風力発電設備組み立て

生物多様性・森林保全

自然の恵みを将来にわたって守るため、生物多様性・森林の保全に努める取り組みを実施します。

香川県の「フォレストマッチング推進事業」のもと、2020年度からさぬき市の保有林の一部を「タダノまなびの森」と命名して森林保全活動に取り組んでいます。参加しているのはタダノグループ社員の有志で、もともと環境学習のために造成されていた芝生広場を中心に、定期的な草刈りや植林を行うことで「環境のまなびの場」を維持しつつ、周辺の豊かな自然が育んださまざまな生き物の生息環境を生かして、作業の合間には草花や昆虫などの観察学習も実施しています。また、ふだん顔を合わせることもないさまざまな部署の社員・家族の皆さんも森林整備に参加することで交流が生まれる機会にもつながっています。

2023年10月には「第4回タダノまなびの森づくりイベント」を開催

して、植林を中心に環境整備を行いました。植林後、地元の団体の専門家による植林した苗木の葉の付き方や種の仕組みなどについての環境学習を実施しました。また、2022年度の活動で設置したハチの巣箱を確認し、入っているハチの巣の観察も行いました。森林整備と植林を通じた環境保全の大切さを感じてもらう教育としての場づくり、また「森林整備・植林に参加する」ことで交流が生まれる機会づくりとして森づくり活動を促進しています。



タダノまなびの森



生物多様性の関連レクチャー

水・海洋保全

海の豊かさを守る取り組みの中で、当社は水資源の保全への取り組みが重要だと考えています。

具体的に、当社製品の塗装には有機溶剤を使用しており、環境汚染のリスクがあります。日本国内の工場では湿式塗装ブースを使用しており、排水についても公共水域には原則放出しない管理で運用して、大気汚染防止法や土壌汚染対策法、水質汚濁防止法など関連法規制の遵守に努めています。また従事者の安全・健康管理等についても、労働安全衛生法をはじめとする関連規制を遵守しています。雨水の排水については放出リスクがあるため、油水分離層の設置・定期点検などの排水管理を実施しています。

海洋保全の一環として「ビーチクリーン活動」にも取り組んでいます。香川県内の当社工場の多くは瀬戸内海に面した場所に位置しています。製品は船便で運ばれることもあり、タダノグループが事業活動を行う上で海とは深い関わりがあります。近年、海ごみは増え続けており、

環境にさまざまな悪影響を及ぼしています。実際に清掃活動をすることでまずは海ごみについて知り、関心をもつことから取り組みたいという思いから、2021年度より実施しています。第1回目と第2回目の活動では、海岸のごみ拾いとともにごみ調査を行いました。調査には、ICC(国際海岸クリーンアップ)データシートを活用し、集めたごみの種類や数量を記録してデータを取りました。これらの活動を通して、海の豊かさを守るためのグループ社員の啓発・参画へとつながっていきます。



志度工場塗装棟



2023年度ビーチクリーン活動

気候変動対応への取り組み

タダノグループは、「創造・奉仕・協力」の経営理念のもと、企業価値の最大化と持続可能な事業活動を行うことで、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献し、世界にそして未来に誇れる企業を目指します。

当社グループではサステナビリティ課題全般およびテーマごとに「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の観点から考え方を整理し、取り組みを強化しています。また、「Tadano Green Solutions」を推進することで、地球環境の改善、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

Tadano Green Solutions とは

社会の一員として、地球環境の改善、脱炭素社会の実現に貢献するためのタダノグループの取り組みを「Tadano Green Solutions」と名付けます。

ガバナンス

経営におけるサステナビリティの重要課題を定め、方針と目標、推進を管理するため、社長を委員長とし、全執行役員を委員とするサステナビリティ委員会を設置しています。委員会のメンバーは、定例の経営報告会、経営会議・取締役会等の各会議において、部門のサステナビリティ課題や重要事項について逐次報告・議論をしています。また各部門における取り組み支援等の専任部署としてサステナビリティ推進グループを設置しています。さらに「サステナビリティ委員会」の下部組織として「リスク委員会」「コンプライアンス委員会」「環境委員会」「人財委員会」の専門委員会があり、全社的なテーマについて取り組んでいます。また、2021年には、環境委員会の下部組織として「CO₂・エネルギー削減部会」「廃棄物・化学物質削減部会」を設置し、具体的な施策検討や各部門の情報共有、長期目標達成に向けた改善継続に取り組んでいます。

戦略

サステナビリティ推進の基本方針として、「人権の尊重」「公正・誠実な事業活動」「社員の尊重と働きがいの確保」「取引先(サプライヤー)と共に成長」「社会貢献」「地球環境の保全」「適切なコミュニケーション活動」の7項目から成る「タダノグループサステナビリティ憲章」を制定しました。関連方針・規定・ガイドライン類を整備し、各部門・グループ会社の年度方針・事業計画から具体的施策へとつなげています。また、サプライヤー(取引先)におけるサステナビリティ推進については「タダノグループサステナブル調達ガイドライン」を2024年1月に新規制定しています。また、気候変動対応について、CO₂・エネルギー削減部会で、いわゆる2°Cシナリオに伴う移行リスク・機会、4°Cシナリオに伴う物理リスク・機会を検討し、当社グループのリスクと機会について右記のとおり分析しています。

電動化など製品の気候変動対応が生み出す変化と影響(移行リスク&機会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電動化製品の開発・製造・販売においてLE業界で遅れを取る/業界をリードする ● 電動化製品の製造・サプライチェーンにおいてハード面・ソフト面での備えが必要となる
気候変動がもたらす社会・経済構造の変化と影響(移行リスク&機会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社製品が使われている市場・お客さまに大きな社会・経済構造の変化が訪れる(化石燃料市場の縮小や各国CO₂排出規制の強化/風力発電などGX投資の増加) ● 気候変動対応でLE業界において遅れを取る(レピュテーションリスク)/業界をリードする
気温上昇・災害増加による現場への影響(物理リスク&機会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設現場や製造現場での労働環境悪化、当社工場・サプライチェーンの被災リスク増加(AIやロボット活用による自動化・作業容易化、災害増加による製品需要増加の可能性も)

リスク管理

タダノグループの業務には、事業戦略リスク、法的リスク、製品安全リスク、情報セキュリティリスク、環境リスク、自然災害リスク等さまざまなリスクがあります。当社グループは、リスク管理について「タダノグループ事業リスクマネジメント規程」に基づき、リスク委員会を通じて、定期的に社内のリスクの洗い出しと評価を行います。リスクごとに対応部署を定めて対応策を講じることにより、リスクマネジメントの強化を図っています。リスク委員会における評価結果については、原則年2回、取締役会に報告しています。

指標と目標

タダノグループ長期環境目標は「2030年までに事業活動におけるCO₂排出量25%削減、製品におけるCO₂排出量35%削減、ならびに事業活動における産業廃棄物排出量50%削減(いずれも2019年度比)」とし、地球環境の保全・貢献に取り組んでいます。

当社グループの事業活動におけるCO₂排出量(SCOPE1・2のみ)は以下のとおりです。

項目	2019年度 (2020年3月期)	2023年度 (2023年12月期)
CO ₂ 総排出量 (t)	31,389	28,734
【内訳】 日本 ※1	20,164	17,857
海外 ※2	11,225	10,877
【参考値】 売上高原単位 ※3	13.77	10.25

- ※1 日本国内全拠点(グループ会社・工場などを含む)が対象。
- ※2 海外生産拠点が対象。今後、算定範囲をその他海外拠点にも拡大予定。
- ※3 グループ売上高を分母とした原単位を表記(CO₂:トン/売上高:億円)。

地域・社会貢献

基本的な考え方

私たちタダノグループは、「創造・奉仕・協力」の経営理念のもと、企業価値の最大化と持続可能な事業活動を行うことで、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献し、世界にそして未来に誇れる企業を目指します。社会貢献については、よき企業市民として社会に参画し、その発展に貢献する事業活動に努めます。

文化財修復・学術支援

タダノらしい社会貢献の一つとして「文化財修復支援・学術支援」が挙げられます。

太陽系および太陽の観測で世界的に有名な京都大学・花山天文台の存続・発展を支援すべく「一般財団法人 花山宇宙文化財団」を設立し、2019年から10年間にわたり毎年100万円を寄付しています。文化財修復としては、「クレーンがあれば、倒れたモアイ像を起こせるのに」という現地の呼びかけに応える形で1988～96年、「モアイ修復プロジェクト」に取り組み、2019年には、創業100周年記念事業として、チリ・イースター島への3台目のクレーン寄贈を行いました。

また2007年には奈良県の「高松塚古墳石室解体」で専用治具の開発など技術支援を行い、2018年2月に「ものづくり日本大賞」の経済産業大臣特別賞を受賞しました。

2008年には、カンボジア内戦の影響もあって長年放置され、石積みが崩落するなど危機的な状況だったアンコール・トム遺跡西トップ寺院の修復作業に役立ててもらったため、製品を3台寄贈しました。



地域社会・国際社会への貢献

能登半島地震・ウクライナ復興支援など

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に関して、被災地の方々の生活を支援するための義援金として、日本赤十字社を通じて100万円を寄付しました。

ロシア・ウクライナで続く紛争については、タダノグループでは2023年4月から9月にかけて、カーゴクレーン(TM-ZE303MH)30台を、ウクライナ非常事態庁(SESU)へ供与しました。タダノのウクライナにおける代理店であるCrane Ukraine社によって現地では架装された30台のカーゴクレーンは、今後ウクライナにおける地雷除去や不発弾処理作業に活用されます。また「ロシア」「ベラルーシ」ならびに自称「ドネツク人民共和国」「ルハンスク人民共和国」向けの製品・部品の出荷を2022年3月から停止しています。



地元への貢献

日本のグループ会社全社員に配布している災害用の「エマージェンシーキット」は、定期的な乾パンや保存水等の入れ替えが必要となっています。2023年12月には賞味期限の少し手前で回収・入れ替えを行い、フードバンク活動を行っている「社会福祉法人高松市社会福祉協議会」の協力のもと、生活困窮者や子ども食堂に来るお子さんとその家庭などへ非常食約3,400食、保存水約1,900本を寄付することができました。2023年11月、香川大学幸町キャンパスで開催された「第31回かがわけん科学体験フェスティバル」に、タダノも出展しました。子どもの科学に対する関心を高めることを目的に開催されているイベントで、タダノは19年前から出展しています。また、地元・香川県をホームタウンとするJ3チーム「カマタマーレ讃岐」のトップスポンサー契約を継続しています。加えて、瀬戸内海の島々を舞台に開催される「瀬戸内国際芸術祭」や高松から世界レベルの音楽を発信する「高松国際ピアノコンクール」への寄付など、地域活性化に取り組む団体やイベントを応援しています。



川島猛とドリームフレンズ「瀬戸で舞う」Photo:Keizo Kioku

乳がん啓発月間の貢献活動

オーストラリアのグループ会社Tadano Oceania Pty Ltdは2023年10月、「Tadano's Breast Efforts」のスローガンのもと、全豪乳がん財団を支援するための募金活動を行いました。その結果、乳がんの研究、発見、予防のために11,500豪ドル(約1,130千円)を超える寄付金が集まりました。活動を開始するにあたり、タダノは限定グッズを制作し、その収益は全て全豪乳がん基金に直接寄付されました。この活動により、社内においてチームメンバーの団結力やポジティブな文化の醸成が促進されました。

ハートフルポケット

さまざまな社会活動を行う団体・個人に対し寄付を行う社員参加型の草の根支援組織として2007年に発足しました。

寄付先はタダノグループ社員から広く募集し、2023年12月までに延べ77の団体に寄付しました。

2023年11月には本支援活動を活用し、かがわ総合リハビリテーション福祉センター体育館にてカマタマーレ讃岐のコーチ3名を招き、発達障がい等を有した方達で構成されたサッカーチームを対象に「インクルーシブフットサル体験教室」を開催しました。

